

学校点描

《M中学校》短縮授業の時間割にして各クラス合唱練習が始まっています。

NO 8 H28. 10. 28

担当：教頭

いじめ問題対策推進事業という補助金で、先生方に書籍を買って勉強してもらったり、選手の気持ちを盛り上げるのぼり旗を作ったりしています。木曜日は、その事業がどのように行われているのかを調査するために、Y県の義務教育課より指導主事の先生が来校しました。「私もA町で中学校の教師をしていました。」と指導主事の先生があいさつをしました。ひとしきり話し合いをした後、学校内を見て回ります。生徒達の様子を参観しながら「いい学校だなあ。私も早く現場（中学校）に戻りたいなあ。」なんて何度も言って帰りました。授業が終わった後、音楽のY先生が、もっと早い時間で参観して欲しかった、2年生が自分達の合唱について一生懸命考えを出し合っている姿をみてもらいたかった、なんて言っています。3年生の授業をのぞくと、B組ではクラス全員がぎゅうっと集まって大型テレビに映る合唱の動画を真剣に見ていました。

「早く学校に戻りたい」と言った指導主事の先生の気持ちが痛いほどわかります。

ああ有情

銀の燭台を教会から盗んだジャンバルジャンは、その後、警察に捕まります。しかし、教会の神父さんは「私があげたのですよ」と言って、さらに2つの銀食器を警察官の前でジャンバルジャンにあげるのです。そのことをきっかけに、「今日からは、正直に生きよう、正しく生きよう」と人生を変える話があるのは、レミゼラブルでした。その後、ジャンは、人を助ける人生に生き、最後に貧しい若者達が企てた革命にも援助していく内容です。今日は、吹奏楽部が土曜日に出場する東北マーチング大会の演目を壮行式の中で披露してくれました。その演目とは、レミゼラブルでした。

学校に来校された方ならもう気づいたことと思いますが、用務員のNさんの手によって全国中学校スキー大会の、のぼり旗が学校周辺のあちらこちらに設置されています。全国大会に向けて、少しずつ準備が進んでいます。地元開催の全国大会に関心を持ってもらいたいものです。学校では、当日の選手を全校で応援しようということで、学校独自ののぼり旗を作成しました。のぼり旗のデザイン原案は、前期生徒会担当のH先生が真っ先に3年生のS・Kさんをお願いをしました。S・Kさんは、昨年から生徒会事務局広報委員としてこの9月まで『生徒会誌ベスト』を担当してくれました。4コマまんが等を入れた紙面づくり等をみて依頼したのですが、彼女が持ってきた原案は、どこにもないような個性溢れるのぼり旗のデザインでした。のぼり旗ができあがったことを本人に伝えると、周りの生徒も関心を持って、展示しているのぼり旗



を見に来てくれました。

『生徒会誌ベスト』第311号から新しく担当することになったのが、2年生のS・Kさんです。記念すべき311号を手にとって読んでみると、そのイラストのうまさに驚かされました。思わず「うまいね〜」と声をあげてしまいました。生徒会誌が配られた日、教室を見て回ると、大勢の生徒が生徒会誌を手にとって真

原案

剣に

目を通す姿がありました。

与えられた仕事に熱中したり、任せられた役割に真剣に取り組むときに、“自分を入れる”“自分らしさを入れる”二人の仕事ぶりにはそれを感じます。

多くの生徒が、いろんな活動の中で自分を入れる、自分らしさを入れることができる学校は素敵だなあって思います。

でも、自分を入れることができる学校づくりの最大の敵があります。それは仲間達も周囲の大人も、生徒の自分を入れた活動に対して無関心であることです。

そう、自分らしさを入れようと考え、工夫したことに対して、心を動かさない、無関心な周囲の存在が、子どもの才能をつぶします。

そういえば、レミゼの物語も、多数の無関心の民衆によって、若者達の革命は最後失敗に終わるのです。“人への無関心こそが悲劇”というテーマがこのレミゼの物語を貫いています。最初に日本語訳されたときの題目は『ああ無情』であるわけです。

最上中吹奏楽部マーチングの演目“レミゼラブル”のラストです。有名な“I Dreamed a Dream (夢破れて)”の演奏が流れます。大勢の無表情な楽器演奏者(民衆)に囲まれた真ん中で、ガードの3年K・Yさんがボロボロになった旗をいつまでも振り続けて終わりました。

仲間を応援するのぼり旗を作成した願いも同じです。



きりとりせん

ご意見・ご感想をお願いします。

Shinyatk1616n@yahoo.co.jp